3

彩の国大学連携による
教育システムの構築について

４大学連携ワークショップ

彩の国大学連携による教育システムの構築　01

４大学連携ワークショップは、４大学の教職員および学生の相互交流の場という位置づけで、これまでに４回実施された。同時に、本ワークショップを通じ、試行授業の改善点の検討、新規の連携科目の開発・開講、４大学の学生による共同卒業研究などの可能性を探る場としても機能してきている。

○第１回　平成25年７月16日（火）
お互いの教育内容・研究内容を理解する

○第２回　平成26年２月18日（火）
４大学での共同開講科目・共同研究の可能性を検討する

○第３回　平成26年９月18日（木）
医療・福祉・工学における「ヒューマンケア」を考える

○第４回　平成26年12月６日（土）
まちづくりマップで考える　地域の暮らしを支える専門職連携の近未来像

（1）4大学連携ワークショップ

①第1回ワークショップ（平成25年7月開催・教職員31名参加）

第1回目のワークショップは、相互の教育･研究活動を理解しあうことを目的とした。参加者は小グループ分かれ、大学もしくは個人の教育・研究活動について同グループの参加者に説明した。その後グループごとに、教育や研究の可能性を話し合った。

参加者からのアンケートにより、4大学のプロジェクトメンバー以外の教職員が知り合う初めての機会であったため、4大学連携プロジェクトのみならず、各大学についての、教育理念やカリキュラム、研究内容などの基本的な理解が深まったことが示された。他方、課題として、小グループ以外で発表内容を共有することが挙げられた。

②第2回ワークショップ（平成26年2月開催・教職員及び学生52名参加）

第2回ワークショップは、まず、プロジェクトリーダーである埼玉県立大学の田口教授より､プロジェクトの概要説明を行った。次に､第1回の課題として挙げられた「グループ間の情報共有」を実現させるため、“4大学でどのような共同開講科目や共同研究が考えられるか”を全体的な対話のテーマとしつつ、「導入教育」「実習教育」などの小テーマごとにテーブルを分け、ワールドカフェという手法を用いて対話した。

ワールドカフェとは、最初に自分が所属しているグループで話し、次に、グループに1名いる“テーブルホスト”を残して参加者は他のグループに移動をして､他のグループでも少し視点を変えて話し合いをし、最終的に再び元のグループに戻って他のグループで話したことを情報共有するという方法である。小グループという話しやすい環境を保ちつつ、テーブルごとの対話内容をなるべく参加者の多くと共有していく枠組みである。埼玉医科大学の米岡裕美講師が本ワークショップのワールドカフェを監修した。

結果として、参加者アンケートの記述から、教職員、学生、といった垣根をあまり感じずに、話しやすい環境で対話できたことが示された。

また、対話に出た、連携教育に対するニーズについては、薬学部学生から、「まずはお互いの授業を見学し合うところから始めてみたい」といった意見が挙げられ、大学間による専門科目等の理解の機会が求められた。

③第3回ワークショップ（平成26年9月開催・教職員及び学生42名が参加）

この回では、「医療・福祉・工学における『ヒューマンケア』を考える」というテーマを設け、4大学によるIPEの共通基盤として位置付けられている埼玉県立大学の講義「ヒューマンケア論」のDVD教材を、今後どのように活用するか、という具体的な切り口で、埼玉県立以外の3大学ですでに行われている講義内容と重複する部分はないか、もしくは、ヒューマンケア論が専門職連携を実施するうえで十分な内容であ

るか、といった点などについて話し合いを行った。4つの大学ごと一テーブルで着席した状態から、ワールドカフェ方式で、一度自分の大学のグループで話し合いをして、その後他の大学のテーブルに移動し意見を交わし、最後に自大学のテーブルに戻り話した内容を共有するという手続きで行われた。

結果として、4大学どの分野であっても、共通基盤としてヒューマンケアを学ぶ意義があるということについて確認をする機会が得られた。また、各大学において、埼玉県立大学の『ヒューマンケア論』の内容のみでは各大学における導入も難しく、各専門家の立場で考えるヒューマンケアも盛り込まれるべきという意見から、応用編の内容についても検討が必要という意見が得られた。

実際に授業を実施する上での問題として、各大学の既存の授業、もしくは現在カリキュラム改編が予定されている大学においては、そのなかでどのように『ヒューマンケア』を学ぶ枠組みを取り入れていくかという点については、この時間の中だけでは解決にいたらなかったため、その後の共同会議において、議論が進められている。

④第4回ワークショップ（平成26年12月開催・教職員及び学生45名参加）

第4回は、日本工業大学の瀬戸眞弓教授の発案により、「まちづくりマップで考える地域の暮らしを支える専門職連携の近未来像」をテーマに、まちづくりと専門職連携教育という観点でグループワークが行われた。参加者は4大学の教職員・学生に加え、他大学の学生3名（自治医科大学2名、筑波大学1名）も参加した。

内容としては、まず、社会資源に関する簡単な説明を行った。次に、テーブルに用意された各大学の近隣の拡大地図に、各地域における既存の社会資源（建物等のハード面の社会資源、市民向け支援団体をはじめとするソフト面の社会資源、共に）について、テーブルごとで話し合い、マーカーやミニフラグでプロットし、情報を視覚化した。その後、各テーブルに多領域の専門家が加わるように参加者は移動し、各地域のニーズを推測した上で市民が暮らしやすい“理想のまち”に必要な社会資源を新たに地図に書き加え、それらの情報をふまえて、まちにおける専門職連携の在り方について対話した。

参加者アンケートからは、保健医療福祉領域ではあまりなじみのない“まちづくり”の分野に対する興味・関心を得たという感想や、多様な視点で社会資源を見直す重要性についての意見がみられた。

以上、全4回のワークショップを通じ、①教職員や学生の交流の場としてお互いを知る機会となったこと、②IPEの共通基盤についての議論のきっかけを得たことが成果として挙げられた。今後は、これまでのワークショップで得られた知見や課題を踏まえることに加え、プロジェクトメンバーが専門職連携教育を推進するうえで必要なスキルを高めるという観点からもワークショップの必要性が指摘されており、これらの意見を盛り込む形でのワークショップ継続を検討している。

（埼玉県立大学　大部令絵）

学生による主体的共同学習機会の創出

彩の国大学連携による教育システムの構築 02

彩の国大学連携科目の共同開発・共同開講をめざす一方、４大学の学生が主体的に学びあう機会の創出をめざしてきた。これまでのところ、４大学及び自治医科大学の学生で組織された埼玉の医療と福祉を考える学生学習グループ「SAIFU」(Saitama /Iryou/FUkushi) の活動支援を行ってきた。

○ 平成 25 年９月１日　勉強会「SA・I・FU を知ろう！」開催支援
　医療・福祉資源のマッピング、ディスカッション、講演会などを行う学習イベント。

○4 大学の学生及び教員が相互に学ぶことのできる学習コミュニティの形成を計画中。

（2）学生による主体的共同学習機会の創出

本取組全体としては、「彩の国連携科目」の開発・開講を目指すことを主眼としているが、4大学の学生同士が主体的に学びあう機会の創出をめざし、必要な支援の取組を行ってきた。

当初は学生の組織化方法などを検討していたが、埼玉医科大学及び自治医科大学の医学生が、埼玉の医療について考える勉強会を立ち上げることが予定されていることが明らかになり、この勉強会を他の3大学の学生も参加できるものとして拡大していただくことを依頼した。その後4大学及び自治医科大学の学生からなる学生学習グループ「SAIFU」 (Saitama /Iryou/FUkushi)が結成され、 平成25年度は様々な活動が行われた。

活動学生は、自治医科大学医学部3年生1名、埼玉医科大学医学部4年生2名・3年生2名、埼玉県立大学健康開発学科3年生1名・看護学科3年生1名・作業療法学科2年生1名、日本工業大学生活環境デザイン学科3年生4名、城西大学薬学部薬学科4年生1名・3年生1名の、合計14名であった。

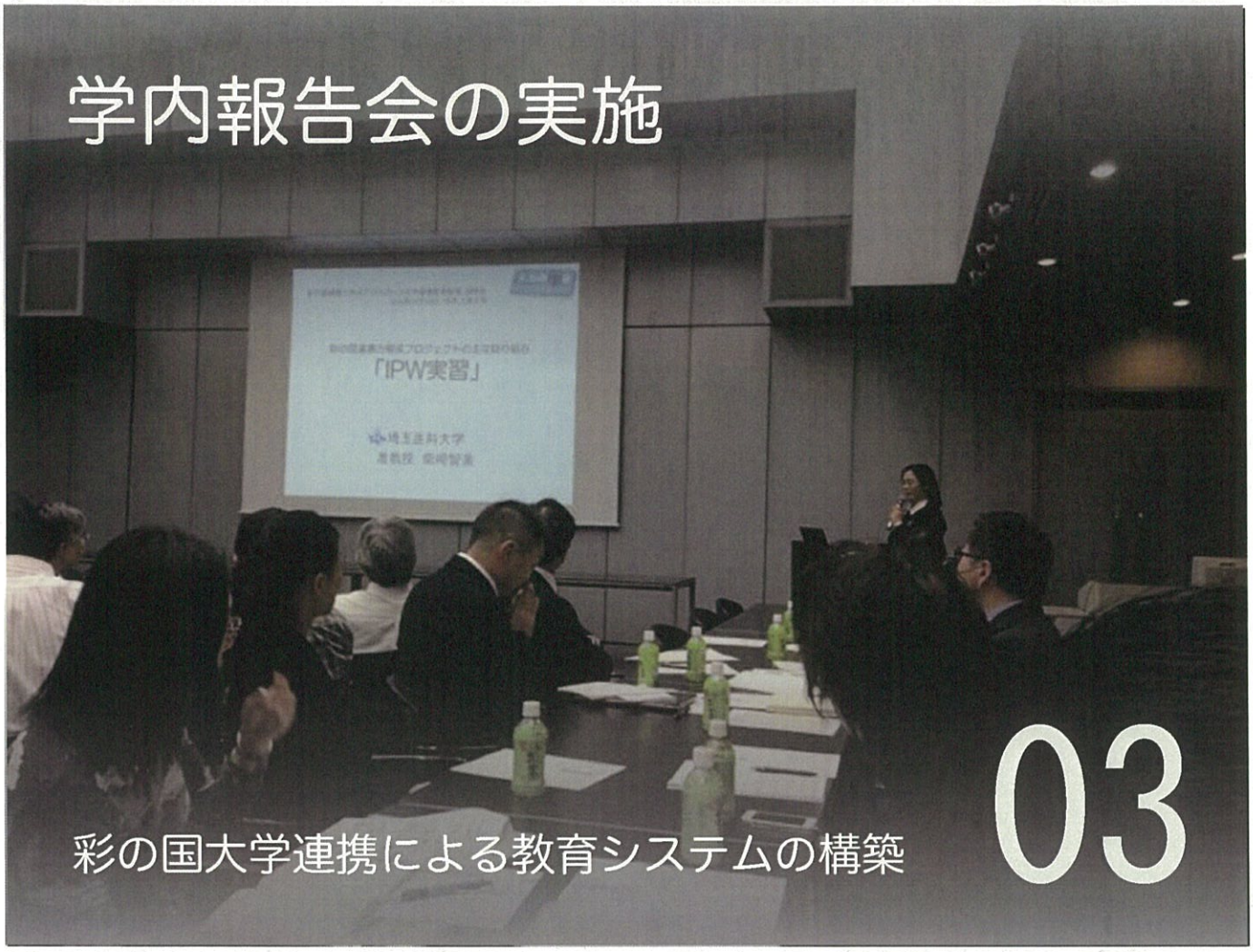
学生メンバーは、会議室などでのミーティングやSkype、SNSサービスの活用などを通じて会議を重ねて、平成25年9月1日には埼玉共済会館にて学習イベントを開催し、県内外から学生や実践者など38名の参加があった。また平成25年7月には秩父病院、12月には霞ヶ関南病院への見学、吉川団地などの見学なども行った。

平成26年度は、これまで活動してきた学生が実習などで多忙となり、6月23日に埼玉医科大学にて懇談会が、7月5日にさいたま市にて勉強会（6名参加）が開催されたが、前年度のような頻度でミーティングや学習イベントを行うことができていない。また下級生への引継ぎが課題となっており、各大学で学生への参加呼びかけを行っているところである。

この支援事業により、保健医療福祉や建築・デザインを学ぶ多職種の学生が、定期的な情報交換や見学会によって相互理解を深めることを支援すること通じて、主体的な学びを促進することができた。学生らによって県内の様々な関係者に呼びかけて研修会を開催することができ、学生の潜在力の確認と支援のあり方を検討することができた。

一方、意欲の高い学生と協働できたため、平成25年度は活発に活動が行われたが、今後活動主体の下級生への移行や、継続性ある活動内容の検討も必要となっている。今後は、4大学の教員で学習企画を持ち寄って学生グループ提示し、4大学の学生及び教員も相互に学べるような学習コミュニティの形成を進めることが課題である。

（埼玉県立大学　新井利民）



学内報告会の実施

彩の国大学連携による教育システムの構築

03

様々な事業が行われる本取組を正規科目として補助事業終了後も継続するためには、現プロジェクト構成員のみならず、４大学の多くの教職員・学生に、本事業が理解され、協働による運営体制を確立することが不可欠である。事業が３年目を迎え、一定の事業成果の蓄積ができた平成26年度より、連携４大学における学内報告会を実施することとした。

○平成26年６月25日（水）
埼玉県立大学での学内報告会実施

○平成26年７月26日（土）
城西大学での学内報告会実施

○平成26年10月30日（木）
日本工業大学での学内報告会実施

（3）学内報告会の実施

様々な事業が行われる本取組を正規科目として補助事業終了後も継続するためには、4大学の有志教職員で構成される現プロジェクト構成員のみならず、4大学の多くの教職員、学生に、本事業が理解されるとともに、協働による運営体制を確立することが不可欠である。本事業が3年目を迎え、一定の事業成果の蓄積もできたことなどから、事業概要・進捗状況・4大学の連携協働教育が目指す方向性などについて説明し、大学間の連携教育の更なる発展的な取組にむけた意見交換を行うことを目的として、連携4大学における学内報告会を今年度より実施することとした。

平成26年度は、埼玉県立大学、城西大学、日本工業大学において、学内報告会を実施した。いずれの報告会においても、各大学を4大学のプロジェクト構成員である教職員が訪れ、これまで担当した事業について資料を用いて説明した。

第1回学内報告会は、平成26年6月25日に埼玉県立大学において行われた。当日は、同大学の教職員および学生、計33名が参加した。参加者の中には、同大学の必修科目であり、本事業のIPE科目の主軸となっている「ヒューマンケア論」「ヒューマンケア体験実習」「IPW実習」の科目責任者および科目担当者も出席し、4大学によって実施する科目と、同大学内で実施される科目との違いに関する質問がなされた。

第2回学内報告会は、平成26年7月26日に城西大学において実施され、同大学の教職員および学生44名が参加した。会場には、同大学所属の細谷治准教授主導による共同科目「緩和医療学（IPW演習）」においてファシリテータを勤めた教員の姿もみられ、また質疑応答の時間には、4大学によるIPW実習の受け入れ施設のある鶴ヶ島地域の医療の現状をふまえた本事業に関する質問・意見があがるなど、本事業に対する参加者の関心の高さがうかがわれた。

第3回学内報告会は、平成26年10月30日に日本工業大学において実施された。本報告会は、同大学における教員対象行事に位置付けられ、教職員113名が参加した。これまでの報告会と異なり、当日は平成26年度IPW実習に参加した同大学学生が、自身の体験談を発表する機会も加えられ、参加者の教職員が熱心に耳を傾けた。質疑応答では、工学分野と保健医療福祉分野との共同研究の可能性に関する意見交換が行われ、報告会終了後にも具体的な研究に関してやりとりが続く様子がみられた。

以上、今年度に実施された3回の学内報告会により、各大学の視点から、本取組に関する教職員および学生の興味・関心が高まると同時に、具体的な共同科目開講、共同研究実施に向けた可能性を探る動きへの後押しになるような意見交換がなされるに至った。今後は、埼玉医科大学における学内報告会の実施を検討すると同時に、これまでの学内報告会で得られた具体的な意見を、今後の事業および補助事業終了後の事業運営に結びつけるべく、検討を重ねることが課題として挙げられる。

（埼玉県立大学　大部令絵）